

説 教

北浜チャーチ

黒田 禎一郎

2021年6月6日(日)

主 題：「恵みと平安が与えられますように！」

ーペテロの祈りー

テキスト：第2ペテロの手紙1章1, 2節

はじめに

・今日から、私たちはペテロ第2の手紙に入ります。

1) 今の時代、価値観の多様化が進み不確実の時代となりました。

・私たちが住む日本社会では、法の下で自由に職業を選べますし、自由に発言することも許されています。ほとんどの場合は自分が好むこと、希望することを行うことができます。そこで価値観が多様化してきました。それは一面では、幸いなことです。

・しかしもう一面では、自分が中心（すなわち自分の考えや願望が第一）となり、自分の目に正しいと思う生き方が優先するようになりました。そこで私たちは壁にあたり、確実に大丈夫なものはないことを悟るものです。

・そのような自分中心の時代になり、創造神の存在も啓示も分からなくなってしまいました。現代は価値観の多様化した時代、不確実性の時代です。一年以上もつづくコロナ禍によって、社会はますます先が見えない状況となってきましたね。やっとワクチン接種は始まりましたが、新型である変異型ウイルスも出てきました。病原菌との戦いはエンドレスであります。不確実の時代に私たちの悩みと苦しみは増え、心身ともに疲れてきた人々も少なくありません。

2) しかしながら、このような人間の戦い、苦しみは今に始まったわけではありません。約2千年前のペテロの時代と現在、そんなに大差はないと思います。なぜなら私たちはペテロ第1の手紙を学びましたように、当時のユダヤ人クリスチャンも離散の地で、大きな試練と迫害の苦しみにあっていました。

・ペテロはその彼らに対して、ペテロの第1の手紙を書き送りました。

そして次のように述べました。

1:8 あなたがたはイエス・キリストを見たことはないけれども愛しており、今見てはいないけれども信じており、ことばに尽くせない、栄えに満ちた喜びに躍っています。

・苦しみや戦いがあっても、「栄えに満ちた喜びに躍っています。」と、ペテロは試練下でも喜びがあると述べました。キリスト者は生きる力を持っています。

第1ペテロの手紙で、ペテロが勧めたことは次のようでした。

① 試練の下でも、主に対する信仰をしっかりと保持すること

② 信仰は栄えに満ちた喜びであること

③ キリスト者間の交わりを持ち、宣教、隣人愛に生きること

・現在に生きる私たちも、1世紀時代のキリスト者と基本的に似ているのではないのでしょうか。では、この第2の手紙で、ペテロは誰に対して、いったい何を書いたのでしょうか。今日はその書簡の冒頭部分から、学びたいと思います。 2点

大切なポイント

1. 手紙の差出人と受取人

・先ずこの書簡のはじめに、ペテロはこのように書きました。

1:1 イエス・キリストのしもべであり使徒であるシモン・ペテロから、私たちの神であり救い主であるイエス・キリストの義によって、私たちと同じ尊い信仰を受けた方々へ。

1) 手紙の差出人

・この手紙は AD67 年ごろに、ペテロによって書かれたものと思われています。

ペテロは「イエス・キリストのしもべであり使徒であるシモン・ペテロから」、と自分を紹介しました。

・日本社会では「肩書き」は重宝されます。たとえば、名刺に自分の名前を書きますが、そこに自分が大切にしているものを書きます。それは学歴であったり、職種であったり、学位であったり、社会的地位であったりします。初めて会う方に自分を知らせてもらうためです。

・ペテロの場合は、それは「イエス・キリストのしもべ、また使徒」でした。

「しもべ」という語句はお分かりでしょう。主人に仕える身分のことです。そして「使徒」という言葉が出てきます。「使徒」とは、使徒の働き 1 章 2 1、2 1 節によれば、イエスの公生涯、すなわちバプテスマのヨハネから始まって、天に上げられた日までの間、いつも行動を共にし、イエスの復活の証人となった人のことです。

・すなわち、イエスの十字架と復活に関する信頼すべき証言者であることです。その使徒たちによって、キリストの教会は建てられました。使徒たちは、後から考えると、選ばれた人たちでした。ギリシャ語では使徒に、「遣わされた者」という意味も込められています。

・ですからペテロの肩書きは、

① 「イエス・キリストに仕えるしもべ」、

② 「イエス・キリストを証言するために、イエスによって遣わされた者」

これら 2 つの肩書きが記されています。

・このように記されているペテロ第 2 の手紙は、ペテロを世に派遣されたイエスの証言者であると伝えています。これがこの手紙の差し出し人の紹介です。次に受取人を見てみましょう。

2) 手紙の受取人

「私たちの神であり救い主イエス・キリストの義によって、私たちと同じ信仰を受けた方々へ」
(1 : 1)

・受取人は、ペテロと信仰を共有しようとしている人々でした。その「同じ信仰を受けた方々」とは、「神であり救い主イエス・キリストの義による人々」のことです。救い主イエス・キリストによって、義とされた人々でした。キリストは十字架のみわざによって、罪人を義としてくださいました。受取人は、キリストによって義とされた同じ信仰を持つ人々でした。

・ここでペテロが意図としていることは、受取人はイエス・キリストの義のみわざによって、恵みによる素晴らしい信仰の賜物に与った人たちでした。

・では、ペテロが述べた同じ「同じ尊い信仰」とは、どういうものであったのでしょうか。それは；

① キリストの十字架によって義と認められた信仰

② 神の約束を理解し信じる信仰

③ 火の試練に耐えて成長する信仰

- このような共通項を持った人々が、この書簡の受取人でした。
このような書き出しで始まるペテロ第2の手紙は、いったい何を伝えようとしたのでしょうか。それが次のポイントです。

2. 霊的祝福によって生きる聖徒

1:2 神と、私たちの主イエスを知ることによって、恵みと平安が、あなたがたにますます豊かに与えられますように。

1) 恵みと平安

- 私たちは皆、アダムの子孫です。生まれながらにして罪を持っています。神の敵として、当然さばかれるはずの者たちでしたが、神はキリストにあって値なしの私たちに、罪の赦しを与えてくださいました。それが恵みです。
- 「恵み」(charis:カリス)は100%、神のものです。「恵み」の復習をすれば、次の3点の特徴がありますね。どうぞ、思い出してください。
 - ① 「恵みは一方通行」
 - ② 「恵みは贈物」
 - ③ 「恵みは平等」
- 聖書は「罪の報酬は死です。しかし神の賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。」(ローマ6:23)と明言しています。なんとという幸いでしょうか。罪の結果は死です。しかしキリスト者は、イエス・キリストにあって永遠のいのちをいただき生きる者です。私たちはキリストを信じる信仰によって、神の怒りの領域から「恵み」の領域に移されたものです。
- ここで幾つかのみことばを読みましょう。

① 詩篇23篇1～6節

イスラエルの王ダビデは、人生の晩年に自分の生涯を振り返り、わずか6節で生涯を歌い上げました。 詩篇23篇

23:6 まことに私のいのちの日の限りいつくしみと恵みが私を追って来るでしょう。私はいつまでも【主】の家に住みます。

これは最後の6節(要約)です。神を信じ歩んだ者の幸いを、ダビデは歌いあげ神を賛美しました。

② ローマ人への手紙5章

- ローマ人への手紙は信仰によって神に義とされた人の幸いを、次のように述べています。
5:1 こうして、私たちは信仰によって義と認められたので、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています。ローマ
恵みによって罪を赦され、心に平安を与えられた私たちは、神との平和の関係に入れられました。ですから、だれでもキリストにある人は平和に生きる人です。

③ コロサイ人への手紙3章

3:15 キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。そのために、あなたがたも召されて一つのからだとなったのです。また、感謝の心を持つ人になりなさい。
ただ神の恵みであります。

④ 第1ペテロの手紙1章

1:14 私たちの主の恵みは、キリスト・イエスにある信仰と愛とともに満ちあふれました。

*このように生ける神によって罪赦された人の人生には、「恵みと平安」が与えられます。

・「恵みと平安」、それは霊的祝福の総称のことです。

イエスをキリスト（救い主）と信じる人、そしてキリストの十字架と復活を信じる人には、「恵みと平安」（霊的祝福）が与えられています。私たちはこの特権に感謝し、特権が与えられていることを喜び、神に礼拝をお捧げするものです。

- ・しかしながら、いかがでしょうか。私たちはこのような特権について聞いても、何か理解できないかも知れません。どうすれば、「恵みと平安」を知ることができるでしょうか。それはイエス・キリストを知ることです。ペテロは次のように述べました。

2) 主イエスを知ること

1:2 神と、私たちの主イエスを知ることによって、恵みと平安が、あなたがたにますます豊かに与えられますように。

- ・ここに「主イエスを知る」というキーワードがあります。世の中はまったく逆ですね。知らない方がよい、距離を置いた方がよいと、言います。それは問題を回避する秘訣とも言います。なぜなら近づき過ぎて、よく問題が発生するからです。私たちが不完全で罪ある者の証しです。
- ・しかし、主イエスを知るとはどんな意味でしょうか。人を知るとか、数学や物理学の真理を知るといった意味ではありません。あるいは名前や体重などを知ることでもありません。そうではなくて、イエス・キリストの人格を知ることです。
- ・この手紙の受取人はイエス・キリストに直接会ってはいませんが、ペテロは聖霊によって、イエスを人格的に知ることができると述べました。ペテロは第1ペテロの手紙1章8節でこう述べました。

1:8 あなたがたはイエス・キリストを見たことはないけれども愛しており、今見てはいないけれども信じており、ことばに尽くせない、栄えに満ちた喜びに躍っています。

① イエスと私の関係

- ・ペテロはイエスのはじめに「主」という言葉を置きました。これはイエスを自分の主とし、自分とイエスの関係を表しています。主と私の関係です。私たちがイエスの前に「主」という言葉を置くならば、私は「しもべ」という関係を表します。しかし、その意識はあるでしょうか。あるいは、ただ自動的に習慣のように「主」と言っているのでしょうか。自問自答してみましよう。

② 主であるお方を知る

・次に、イエスが自分の主であるならば、主であるお方を知りたいと思うことは自然でしょう。主人を知らない「しもべ」はいません。「しもべ」が主人を知ることは、自然であります。

・新約聖書を開きますと、パウロもイエス・キリストを知ることに関心をかけていたことが分かります。 **ピリピ人の手紙 3章 8-14 節**

3:8 それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、私はすべてを損とと思っています。私はキリストのゆえにすべてを失いましたが、それらはちりあくただと考えています。それは、私がキリストを得て、

3:9 キリストにある者と認められるようになるためです。私は律法による自分の義ではなく、キリストを信じることによる義、すなわち、信仰に基づいて神から与えられる義を持つのです。

3:10 私は、キリストとその復活の力を知り、キリストの苦難にもあずかって、キリストの死と同じ状態になり、

3:11 何とかして死者の中からの復活に達したいのです。

3:12 私は、すでに得たのでもなく、すでに完全にされているのでもありません。ただ捕らえようとして追求しているのです。そして、それを得るようと、キリスト・イエスが私を捕らえてくださったのです。

3:13 兄弟たち。私は、自分がすでに捕らえたなどと考えるではありません。ただ一つのこと、すなわち、うしろのものを忘れ、前のものに向かって身を伸ばし、

3:14 キリスト・イエスにあって神が上に召してくださるといふ、その賞をいただくために、目標を目指して走っているのです。

・パウロは前向き信仰の人でした。彼は「私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、私はすべてを損とと思っています。」と言いました。 (ピリピ 3:8)

・彼は別の箇所で、「自分は罪人のかしらです。」(1テモテ 1:15)と言いました。そんな自分に、神の恵みが満ち溢れたと言いました。ですから他の人にも「恵み」を分け与えたいと願いました。賜物を分け与えて、励ましたい、強めたいと願いました。

イエス・キリストを真に知った人は、もはや沈黙してはおられません。それは恵みの素晴らしさを味わったからです。

・ローマ人への手紙の著者はこう述べました。

1:11 私があなたがたに会いたいと切に望むのは、御霊の賜物をいくらかでも分け与えて、あなたがたを強くしたいからです。

③ 主従関係の祝福

・「恵みと平安」(霊的祝福)を得るにはどうすれば、良いでしょうか。

それはイエス・キリストを知ることから始まります。私たちもイエス・キリストを知ることです。逆を言えば、主イエスを知らないならば祝福に与れないということです。

・では、主を知るとはどういうことでしょうか。

① 主イエスを知識的に知る

② 主イエスを人格的に知る

・日々の生活において、私たちはこの2点で主イエス・キリストを知ることができます。イエスに聞き続けてゆくとき、私たちの目はいよいよ霊的なものへと開かれていくでしょう。そして、肉の目では見え難い神のわざと神のご支配を見つめるようになります。また神が行われる事柄、神

が与えてくださる祝福に目を凝らすようになります。

- ・神が私たちに何をなさそうとしておられるのか。どこへ導こうとしておられるのか。また、どこに目指すべき目標があるのか。それらのことに目が開かれてゆくのです。世と世の欲は、それを見え難くさせるでしょう。しかし、そういったものに心を奪われてはいけません。しっかりと目を開き、私たちの目を、イエスの語りかけに開きつつ、歩ませていただきますよう。
- ・ 1:2 神と、私たちの主イエスを知ることによって、恵みと平安が、あなたがたにますます豊かに与えられますように。

ここに「ますます豊かに」という祈りがあります。主を知る恵みの注ぎは、終わりがありません。それは尽きることのない恵みです。主イエスを知ること、霊的祝福をいただくことです。

ま と め

主 題：「恵みと平安が与えられますように！」

ーペテロの祈りー

- ・今日のメッセージをまとめましょう。使徒ペテロは、この書簡で受取人に何を書き送ったでしょうか。それは「恵みと平安」（霊的祝福）に生きる聖徒になって欲しいという祈りです。
- ・「恵みと平安」（霊的祝福）を得る秘訣、それは主イエス・キリストを知ることです。
 1. 主従関係を覚える
イエスを私の主とする関係です。
 2. 主イエスのことばを聞き続ける
聖書のみことばを読み、聖霊のお助けをいただきながら、主イエス・キリストを知識的に、そして人格的に知ることです。
- ・それが試練下におかれた聖徒への使徒ペテロの祈りでした。

* God bless you!